

平成30年度 都城市立 夏尾小学校 学校評価報告書

4段階評価 4・・・期待以上 3・・・ほぼ達成 2・・・やや達成できていない 1・・・達成できていない

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		結果の考察・分析及び改善策等	学校運営協議会の評価
				指標別	総合		
学びの基本づくり	授業力	1 よく分かる授業を目指し、1時間の授業の充実と一人一人に応じたきめ細かな指導を行う。	・ 児童、保護者のアンケート評価で、AあるいはB評価が80%以上を達成する	・ 校内研究において一人一授業を行い、広く授業を公開することで、日々の授業改善を図っていく。	3	・ 本年度は研究主題を『「分かる・できる」ようになる算数科学習指導の研究』副題を「複式学級におけるガイド学習等の指導を通して」として校内における研修に取り組んだ。昨年度と違って、3つの学級全てが複式学級となったため、効果的な複式指導について理解を深めながら授業力向上及び児童の学力向上に努めてきた。 ・ 昨年度と同様に、午後6校時前にアクティブタイムを設定して「百マス計算や計算音読」「漢字練習」など基礎基本となる学力定着のために毎日のように取り組んできた。また、読書や読み聞かせ活動を充実させた。例えば、職員だけでなく地域の方の読み聞かせや高学年児童による読み聞かせを実施して読書への興味関心を高めてきた。全児童の読書冊数の合計は1月末現在で1100冊を越えている。 ・ あいさつや返事、授業中の発表など日常的な場はもとより、全校学活や帰りの会など全児童が一斉に活動する機会を増やし、児童自らの意見や感想を発表し合う場面を設定して児童の表現力向上を図ってきた。その結果、保護者の評価、児童の自己評価ともに80%以上の達成率となった。今後もこうした取組みを継続させながら児童の自己肯定感と他者承認感を育てていきたい。 ・ 毎学期に一度家庭学習週間を設定して家庭学習への取組み強化したり、家庭学習ノート展を実施したりして家庭学習の充実を図ってきた。また、参観日や学級通信で保護者への啓発促進や協力・支援要請をしてきた結果、個人差はあるものの全体的に家庭学習への取組みが良くなってきている。今後も継続して家庭との連携を深めるとともに、学習の目的やその効果、努力の必要性などについて児童の理解を促し、家庭学習への意欲を高めていきたい。	4
	基礎基本	2 マスタータイムにおける国語（漢字・言語事項）・計算の習熟などの時間を充実させ「読み・書き・計算力」の向上を図る。	・ 全学年がそれぞれの能力において到達目標の75%以上の到達度を達成する。 (各種学力調査)	・ 1単位時間の中に習熟の時間を確保するように努め、個別指導の充実を図る。	4		
			・ 単元テスト結果で平均80%以上の到達度を達成する。	・ 業間活動の実施方法・内容の見直しと共通理解・共通実践を図る。	3		
	コミュニケーション	3 相手を意識した聞き方・話し方の定着を図る。	・ 児童、保護者のアンケート評価で、AあるいはB評価が80%以上を達成する	・ 夏尾伝統の自分の意見を言える力の継続を図る。 ・ あらゆる教育活動におけるスピーチ活動を充実させる。	3		
	家庭学習	4 家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図る。	・ 「自主的に宿題や宅習をする」と答える児童や保護者の割合が70%以上を達成する。	・ 家庭学習の習慣化を各家庭へ呼びかける。学習の目的及び家庭学習の仕方について児童へ継続的に指導する。	3		
豊かな心の基本づくり	教育相談	5 児童理解のための教育相談の充実を図る。	・ 「学校が楽しい」と肯定的な回答をする児童の割合が90%以上を達成する。	・ 児童理解の方策を工夫し状況に応じた相談の充実や体制の整備を行う。	4	・ 毎月教育相談の時間を設定し、児童一人一人へのアンケートや聞き取り調査を行うことにより学校内外での交友関係や悩みなどの状況把握をしてきた。その結果、ほとんどの児童は悩みなく学校が楽しいとしていたが、時には一部の児童の乱暴な言動により嫌な思いをしていると答えた児童もいたため、全職員で対応策を協議して指導に当たった。こうしたことにより、これまでにいじめや問題行動などの重大な問題は起きていない。 ・ あいさつ指導強化月間を設定したり毎週水曜日に小中合同あいさつ運動を実施したりして、あいさつ指導に取り組んできた。その結果、児童があいさつをする習慣が確実に身に付いてきている。特に、保護者や地域の方からは肯定的な評価をいただいている。学校での朝のあいさつやお客様へのあいさつなどが良くなってきている。しかし、職員の評価は十分ではなくこれまで以上に明るく元気のあるあいさつと返事をしたいという願いがある。今後の課題である。 ・ 児童の1名が「もう少し」としているが、その他は「きまりを守っている」と肯定的な回答であった。また、ほとんどの保護者や地域の方からも肯定的な評価をいただいている。児童の規範意識は高まっている。しかし、学校内での廊下歩行など日常の行動に軽率な場面もあり、今後の指導が必要である。 ・ 本校は少人数ということもあり、全校一斉の行事や諸活動の機会を多く設定してきた。児童も自分たちで考えて昼休みに全員一緒に遊ぶ場面をつくっている。特設校制度により迎えた昨年度末の2名、本年度途中の1名の転入生計3名がともに本校の一員としてすっかりなじんできているのも、こうした取組と児童の優しさや思いやりが発揮された結果だと言える。アンケート調査でも、全回答の80%以上が肯定的な評価となった。	4
	あいさつ	6 学校や地域社会で進んであいさつのできる子どもを育成する。	・ 「進んであいさつをする」と肯定的な回答をする児童の割合が90%以上を達成する。	・ あいさつ運動を利用して、あいさつに関する指導を行う。 ・ 日常指導を継続して行う。	4		
	きまり	7 「きまりよい廊下歩行」「安全な登下校」を守る児童を育成する。	・ 「きまりよい廊下歩行・安全な登下校」がしっかりと守られていると肯定的な回答をする児童の割合が80%以上を達成する。	・ 集会等を利用して、廊下歩行や登下校に関する指導を行う。 ・ 掲示物を常設し意識化を図る。 ・ 常時指導を徹底する。	3		
	思いやり	8 人権教育の充実を図り友達に対して思いやりのある言動のできる児童を育成する。	・ アンケートの思いやりの項目について児童、教師、保護者の評価で肯定的な回答が80%以上を達成する。	・ 教育活動の中に自己肯定感を高めるシステムを構築する。 ・ 学級運営の中にお互いのよいところを認め合う機会をつくる。 ・ 道徳の時間の適切な実施を図る。 ・ 学級活動の中にコミュニケーションスキルを取り入れた授業を実施する。 ・ 教師一人ひとりが児童理解に努め、温かい雰囲気のある学級経営を行う。	4		

健康 安全 の 基 本 づ く り	体力向上	9 体育の授業や業間の時間に「体力向上」の取組みを取り入れることにより、児童がいろいろな運動に親しむ機会をつくり、児童の体力をバランス良く向上させる。	・ 全学年が運動能力調査において個人到達目標の75%以上の到達度を達成する。	・ 体力向上の時間を計画的に実施する。 ・ 体育授業で十分な運動量を確保する。 ・ 機会を捉えて外遊びを奨励する。 ・ 水泳特別練習を実施する。 ・ 授業中の立腰指導を強化する。	3	3	・ 一輪車を新しく購入したり整備したりするなど児童一人一人の体格に合った一輪車を用意することができた。また、運動場と体育館のどちらでも活用できるサーキットトレーニングメニューをつくり体力向上を図った。午後の業間の時間を活用しながらの西岳・夏尾の連携活動一つである「なわとびギネス」にも取り組んだ。児童の評価は体力向上に関して肯定的評価が90%以上となり運動意欲の向上や自信につながっている。	4
	食育推進	10 養護教諭との連携を図り、給食時間や各教科、学級活動等における食に関する指導の充実を図り食に関心をもつ児童を育成する。	・ 養護教諭との連携も図りながら、全学年で食に関する授業実施率100%を達成する。	・ 年間指導計画に基づいて食に関する授業を実施する。 ・ ランチルームでの給食指導の充実と適切な運営を図る。 ・ 給食感謝集会を実施する。 ・ 弁当の日の活動を推進する。	4		・ 給食の時間には、児童にその日の献立に使われている食材や栄養について説明させたり、出された献立の感想を一人一人が発表したりした。また、「弁当の日」を設定して実施したり、給食センターから栄養職員を招いて食に関する指導をしたりした。こうした取組により児童の食に対しての知識が増え興味・関心が高まった。	
	健康管理	11 PTAや家庭等と連携しながら、「早寝・早起き・朝ごはん」の意識の向上を図る。 また自分の体は自分で守る児童の育成に努める。	・ アンケート評価で「早寝・早起き・朝ごはん」の実施率80%以上を達成する。 ・ 学校保健委員会を年2回実施する。	・ 感染症予防のための手洗い・うがいの徹底を図る。 ・ 学校保健委員会における保護者への啓発活動を実施する。 ・ 学級懇談会や学級指導の中で日常的に指導する。 ・ 保健便りの発行を推進する。	3		・ 「早寝早起き朝ごはん」の実践については、保護者の100%、児童の85%が肯定的評価となった。学校では日常的に手洗いやうがいを行ない、学級通信や保健便りの発行、学校保健委員会の開催などを通して保護者の協力を呼びかけ、望ましい食生活や健康な生活習慣の育成を図っている。また、長期休業になると養護教諭が「生活リズムチェックカード」や「歯みがきカード」を作成して配付し、児童自身が健康管理できるようにした。	
	保健安全	12 毎朝の健康観察や特定の運動（水泳・運動会・持久走）の事前健康調査を確実にを行い児童の健康状態を十分把握する。	・ 健康観察・特定の運動の事前の健康調査実施率100%を達成する。 ・ 毎月1回、遊具等の安全点検を入念に実施する。	・ 毎朝の健康観察の確実な実施を行う。 ・ 健康に関する保護者との連絡を密にする。 ・ 配付後の調査書を100%回収し、全職員が児童の保健安全に配慮する。	4		・ 職員は毎朝児童の健康状態をしっかりと把握して校務に当たった。また、水泳学習や運動会・持久走に取り組み前には、それぞれに健康調査を実施し、その結果については必ず全職員が共通理解して指導にあたった。学校の施設や遊具などの点検は毎月確実にを行い、必要に応じて対策を講じながら改善を図ってきた。	
教育 課 程 全 般	教育課程	13 本校独自の特色ある教育課程を編成し、知・徳・体の調和のとれた児童を育成する。	・ 教育課程評価やアンケート評価で80%以上を達成する。（教師・保護者）	・ 毎学期の教育課程及び教育活動状況を評価し、改善を図るようにする。 ・ 共通理解を図る場を数多く設定する。 ・ 行事等は全職員で協力して行う。	4	4	・ 午前中5時間授業は2年目となり定着してきた。これにより、午前中4時間しか授業をしない従来の教育課程よりも午後の日中に余裕が生まれ、そこに業間の時間や6時間目の授業などを柔軟に計画・実施することができた。また、午後から入る事の多い職員の出張時の自習の多くを回避することができた。 ・ 昨年度と同様に梅干や味噌作りなど様々な体験活動を重視した教育課程を実施してきた。特に、毎年3学期に行っている高齢者宅訪問は児童にとって非常に貴重な活動となっていて、ふるさと夏尾・御池地域を再認識し未来を考える重要な体験であり、正に本校ならではの教育活動である。このような取組の結果、夏尾ならではの特色ある教育活動に対して全回答の88%が肯定的評価となった。 ・ 本年度も学校便りやWebページによる情報発信を積極的に展開し、開かれた学校づくりを推進してきたこともあり、このところ本校の小規模特認校としての認知も定着していて、児童数の増加傾向もうかがえる。地区の有線放送での作文発表も好評であり継続して実施した。 ・ 本年度も「ふるさと学習」を推進してきた。オープンスクールでは、花植え活動やグランドゴルフ大会を実施した。本年度は児童と保護者と、祖父母を含む地域の方々に3世代グランドゴルフ大会となり、保護者が家庭教育学級でつくった郷土料理「ガネ」はお土産となり地域の方に喜んでいただいた。夏尾の伝統「奴踊り」は今年も各地区の祭りはじめ、学校内外での行事で披露してきた。児童にとって大きな自信と誇りになっている上、学校と地域の守るべき財産となっているため今後も活動を継続させたい。そのためには特に、保護者や地域の支援（伴奏など）が欠かせないものとなっているので、地域との連携の継続と強化を推進していきたい。	
	参観日	14 参観日等を魅力あるものに工夫し、広く学校の取組を発信する。	・ 保護者参観率90%以上を達成する。	・ 参観日の日程・内容等を工夫し、通信等で発信し、参加を促進する。	4			
	総合的な学習の時間	15 総合的な学習の時間（ふるさと学習）の充実を図り、郷土を愛する心を育てる。	・ アンケート評価で80%以上を達成する。（児童・教師・保護者・地域）	・ 積極的に地域の素材や人材を活用し、学習を活性化させる。 ・ 豊かな体験や児童の自主性・自由な発想を生かせる展開を心がける。	4			
	連 携	16 保護者及び地域の各種団体や施設等との交流を行い、体験活動を積極的に行う。また、学校だよりやWebページで学校の教育活動の周知を図る	・ 保護者、地域からのアンケートで80%以上を達成する。	・ 通信等で保護者の協力を得ながら、積極的な参加を呼びかける。 ・ 地域の行事等に積極的に協力する。 ・ 学校だよりの確実な発行をする。 ・ 学校 Web ページの充実を図る。	4			
《学校運営協議会の総評》 夏尾小学校では管理職が一部の授業を担当したりガイド学習の手法を導入したりして完全複式指導体制での教育活動を充実させていると思う。全職員が協力しながら一生懸命に子ども達を育ててもらっていることに感謝したい。 ・ 全校児童数は少ないが、全員で一緒に給食を食べたり勉強したりしてみんな仲が良いと思っている。時には全員で運動したり遊んだりしているのが大変喜ばしい。昔は上級生と下級生と一緒に行動することが多く、そこで集団での人間関係を学んでいたが、今はその機会が減少していると思う。今後も全員がふれ合えるような時間を計画して、大いに遊んで、経験して、そして、学んでほしい。 ・ 学校便りやWebページなどで情報発信がしっかりとなされ、小規模特認校としても認知されてきている。また、梅干しづくりや味噌づくりなどの自然を生かした活動、夏尾の伝統となっている奴踊りなど、夏尾ならではの教育をこのまま継続してほしい。								